

土木学会誌・土木学会論文集 への御投稿について

土木学会編集部長 国分正胤

土木学会誌と土木学会論文集とが二本立に編集されるようになってから早くも4年目を迎えることになりました。これも会員各位の御援助の賜と深く感謝しております。この学会誌と論文集とは、それぞれ特色をもつて編集されておりますが、編集方針が一般に明らかにされていないため、投稿にあたり当惑される方が多いように聞いていますので、今回両編集委員会において学会誌および論文集の投稿要領をそれぞれ定め、編集方針を明らかにすることに致しました。従つて今後投稿される会員各位は、これらの投稿要領を参考にして投稿して載きたいと思つています。なお本件について御意見があれば承りたいと存じます。

学会誌投稿要領

(1) 投稿される原稿は、すべてその内容が学会誌記事としてふさわしい品位と価値があり、かつなるべく会員に興味あるものを歓迎します。

(2) 原稿はその内容が正確で、文意が容易に理解でき、文章が簡潔平易で図表などもできるだけ適切、効果的に利用されることを希望します。

(3) 原稿の本文で引用された参考文献は、なるべくその出所を明らかにして本文末尾に記載して下さい。

投稿原稿の一部内容がすでに他の発表機関に登録されたような場合には、どこかにその旨を明記して下さい。

(4) 投稿された原稿は、便宜上次の分類によつて掲載することになりますから、投稿に際しては原則として下記のページに従つた上で、あらかじめ掲載希望分類を明示しておいて下さい。

報 告	：	刷上り 6 ページ (学会誌原稿用紙36枚)
解 説	：	” 6 ” (” 36 ”)
資 料	：	” 4 ” (” 24 ”)
寄 書	：	” 4 ” (” 24 ”)
ニュース	：	” 0.3 ” (” 2 ”)
会 員 欄	：	” 0.5 ” (” 3 ”)
技術相談	：	” 1 ” (” 6 ”)

ただし「解説・資料・寄書」は特別なものに限り増ページを認めます。

(5) 「報告」は土木工事の調査・計画・設計・施工およびこれらに関係する業務、これらに関連して行つた

試験研究の報告であつて、なるべく創意工夫や特色のあるものを歓迎しますが、必ずしも大工事の報告などを対象と致しません。

また以上に対する討議もこの欄で取扱うことと致します。

a) 一つの工事に関係ある報告は、なるべくその工事の全貌をも明らかにして下さい。

b) 試験研究の類の報告は、なるべく誰もがわかりやすく、応用しやすいように書き、試験研究の目的と結論を明らかにして下さい。その成果が実際の工事に役立つものを希望します。

c) 特に創意工夫や特色のある点についてはこれを強調し、報告の重点を明らかにして下さい。

d) 新材料、新工法に関する報告はできるだけくわしい資料を入れて記載願います。

e) 和文要旨、英文題目、英文要旨を必ずつけて下さい。

(6) 「解説」は執筆者が土木技術者としての広い立場に立つて、いろいろの専門分野における現在、将来の問題点などを会員一般に啓もう、解説していただくものでありますから、なるべく客観的な解説たることが望ましいのですが、必要により執筆者の見解も加えられることが考えられます。

(7) 「資料」はこれを活用される会員が多いほど、また利用効果が大きいほど好ましいのですが、なるべくそのまま実務に応用できるようなものが望ましいのです。類似の資料を収集整理し、これらをまとめて、かたよりのない資料、比較のための資料として投稿願えばなお結構と思われれます。

いずれにしても読者の判断と利用の方法を誤らないような注意を払つて下さい。

(8) 「寄書」は「報告」、「解説」、「資料」その他に属さない原稿で、その内容が寄書として会員の興味を引くに十分と思われる紹介記事とします。

(9) 「ニュース」は新鮮なものを願います。工事ニュースにはなるべく適当な工事写真を添付して下さい。「ニュース」としては簡単な説明をつけた「口絵写真」も募集しております。この種のもはそのことを、あらかじめ明示してお送り下さい。いずれも特にローカルなニュースを求めています。

(10) 「会員欄」では会員からの学会に対する希望や意見、一般土木界へのいろいろな声を待つておりますから、広く御利用下さい。

(11) 「技術相談」では土木技術に関する会員の質問にお答えします。回答は学会の責任において行いますからお任せ下さい。

(12) 投稿された原稿は会誌編集委員会において審議の上、その採否、登載の時期、方法などを決定致します。

その結果は随時投稿者にご連絡致します。

内容の審査には担当の委員が当ることとなりますが、委員会で審議の結果、原稿に対する希望意見を付してこれを御返却することもありますから、あらかじめ御了承下さい。

(13) 会誌編集委員会で審議し、論文集として掲載する方が適当と考えられた原稿は、これを論文集編集委員会に回送付託することがあります。

この場合にもそのことを投稿者にご連絡致します。

(14) 登載された原稿は(写真をふくむ)原則として返却いたしません。

(15) 登載された原稿には土木学会編集部規定による原稿料を差上げます。また抜刷を要求される場合にはその実費を頂戴した上で、印刷送付致しますから、必要の向はあらかじめ学会編集部までご連絡下さい。

論文集投稿要領

(1) 土木工学に関する理論・実験・設計・計画などの研究論文および創意のある工事の調査、実施の報告であること。ただし、他の発表機関に既発表のものは、そのことを明記し要約されて投稿して下さい。

(2) 論文集には定期論文集と別冊論文集(自費出版論文)の二通りあります。

(3)

a) 原稿用紙は学会所定のものを使用して下さい。

b) 文章は和文、欧文どちらでも結構ですが、文体はなるべく平易で簡潔な口語体を用いて下さい。

c) 定期論文一篇の長さは原則として刷上り7ページ以内とします。すなわち、和文の場合は400字詰原稿用紙40枚以内(図表、写真等をふくむ)、欧文の場合は6000語以内です。

d) 図表は必ず墨書し、説明字は縮尺を考慮してなるべく大き目に書いて下さい。なお、できうれば縮尺を指定して下さい。

e) 希望審査部会を参考として書いて下さい。なお、別冊論文集をご希望の場合はその旨明記して下さい。

f) 和文要旨、英文題目、英文要旨を必ずつけて下さい。

(4) 投稿原稿は論文集編集委員会に設けられた次の4部会のうちの担当部会において審議し、部会長会において登載の可否、その他を決定致します。なお、部会は次の通りです。

第1部会(応用力学・構造力学・橋梁等)

第2部会(水理学・水文学・河川・港湾・海岸工学・発電水力・衛生工学等)

第3部会(土質力学・基礎工学・土木機械・施工等)

第4部会(鉄道・道路・コンクリートおよび鉄筋コンクリート・土木材料・都市計画・空港・測量等)

(5) 登載原稿には原稿料は支払いません。

(6) 定期論文集の抜刷は著者に50部まで無料で差上げますが、それ以上希望の方は実費をいただきますからあらかじめ希望数を原稿にお書き下さい。なお、別冊論文集(自費出版論文)は原則として著者に発行部数の5%を無料で贈呈します。それ以上希望されます方は部数を限り実費でおわけ致しますこともあります。

(7) 別冊論文集(自費出版論文)の著者負担金は原則として1ページ当り1000円です。発行部数、定価は編集部で合議の上決定しますから御一任下さい。発売収入が印刷実費に達すれば、著者負担金は返却致します。なお、印税は御払い致しません。

(8) 登載原稿は原則として返却致しません。

口絵写真提供のお願い

毎号の会誌を開くと、まず表紙の次に口絵と称される写真ページがあります。主として工事写真を中心として、工事計画の概要、工事中または完成した土木構造物の状況などを目で見えるページとして、簡単にわかりやすく紹介するのが目的としています。そのため航空写真、組合わせ写真等もなるべく多く採用して立体的に編集するように努力していますが、なかなか一目でピンとくる写真は集まりにくい現状です。直接現地へ編集部から取材に行くにも時間、経費の点を考えると、行動範囲が非常に限られてしまいます。そのため編集委員の目にふれる写真だけでは、どうしても不足がちですので、特にこの際読者の方々の御協力をお願い申し上げます。各現場では当然それぞれの記録写真を撮影されておられるでしょうし、また会員各位の間でも腕に覚えのカメラで力作をものさしておられる方も多いと思います。決して大工事の写真、ダイナミックな写真のみを要求してはなりません。内容が特異なもの、施工中の苦心がにじみ出ているような写真があれば、喜んで掲載させて戴きます。御投稿の場合は、全体工事の概略と写真に対する簡単な説明をつけ、大きさは手札以上、なるべく選びやすいように多数お送り願います。採用の分には薄謝を呈するとともに、御希望があればお送り頂いた写真は登載の可否にかかわらず御返却致します。

【編 集 部】